

## 第 8 学年〇組 英語科 学習指導案

日 時 令和 5 年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
 活動場所 4 階 英語科 教室  
 生徒数 男子 20 名 女子 16 名 計 36 名  
 授業者 T1  
 ALT

### 1. 単元名

Program 6: § 3 “Live Life in True Harmony” (p.74), SUNSHINE ENGLISH COURSE Book 2

### 2. 単元について

Program6 においては、世界的に有名な歌手スティービーワンダーについて会話とモノログを通して学習する。その内容から彼の人生観と人間性を感じ取ることができ、これからの生き方の気づきを与えてくれる教材となっている。国際理解の価値を実感できるプログラムとなっている。言語材料は「受動態」である。本単元を通して、生徒は「自分の好きなものや建物」について、まとまりのある文章で説明・やり取りする力を養うことができるようになる。会話のつなげ方や説明の深め方にも着目させる指導を行いたい。

### 3. 生徒の実態について (省略)

### 4. 指導観

本校では、個別最適な学びの実現に向けて、前期課程（小学校）との接続を踏まえた後期課程（中学校）の指導方法を改善・充実させるとともに、1人1台端末を活用した効果的かつ持続可能な指導方法を目指してきた。実践を始めた時点では、学習者用デジタル教科書をどのように活用すればよいか、明確な方法が分からなかったため、本校ではトライアル・アンド・エラーの精神で実際に使ってみて効果的であると感じられるかどうかを確認しながら実践を積み重ねてきた。現在、個で練習する時間と全体で練習する時間の組み合わせを考えながら、学習者用デジタル教科書の動画や音声を使って教科書の音読に取り組んでいる。

また、本校の学校教育目標の一つである「自ら学び深く考える生徒」の育成に特に重点を置き、英語の指導を行っている。将来英語を駆使することのできる生徒に育てるために、「自分の考え、意見をやり取りする活動」や「自分自身で学習方法を調節する機会」を多く設けている。その際、今の自分が「言うことができること」と「言うことができないこと」をはっきり認識させることが大切だと考える。本時ではデジタル教科書を使用して音読活動を行うが、個の練習時間を設けることで「自ら学び深く考える生徒」の育成を行う。

### 5. 単元の目標

ALT に「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事実をまとまりのある文章で書くことができる。

- ・受動態の特徴や決まりを理解し、「自分の好きな人やもの、建物」について事実を受動態などを用いて書く技能を身に着けている。〈知識及び技能〉
- ・ALT に「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事実をまとまりのある文章で書いている。〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ALT に「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事実をまとまりのある文章で書こうとしている。〈学びに向かう力、人間性等〉

### 6. 単元の評価規準

(本単元における「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔発表・やりとり〕」については、目標に向けての指導は行うが、単元内で記録に残す評価は行わない。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<知識> 「受動態」の意味・形・機能に気づき、理解している。 <技能> 自分の好きな人やもの、	ALT に「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事	ALT に「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事

	建物について、受動態を用いて説明する力を身に着けている。	実をまとまりのある文章で書いている。	実をまとまりのある文章で書こうとしている。
--	------------------------------	--------------------	-----------------------

### 7. 単元の指導と評価の計画

時	◆ねらい ○活動	評価		
		知技	思判表	態度
1	◆受け身を表す“受動態”について学ぶ ○1学年で学んだ「～が好き」ではなく、「～に好かれている」と話してやり取りをする。 ○やりとりしたことを、まとまりのある文章で書く。	[Blue shaded area]	[Blue shaded area]	[Blue shaded area]
2	◆行為者を交えた受動態の表現法を学ぶ ○日本の有名な建物について、「いつ、だれによって建てられたか」を、自分が知っている情報をもとにやり取りする。 ○やりとりしたことを、まとまりのある文章で書く。			
3	◆慣用的に使われる受動態について学ぶ ○モノや食べ物の原材料が何かについて、「～によってつくられている」と伝えあうことで、自分が知っている情報をもとにやり取りする。 ○やりとりしたことを、まとまりのある文章で書く。			
4	◆級友と協力して言語材料に関する理解を深める ○ワークブックをもとに、グループで協働して問題演習に取り組み、受動態の知識を深める。			
5	◆「スティービーワンダー」についての会話を通して、概要をつかむ能力と会話の継続の仕方を学ぶ ○「スティービーワンダー」に関する会話を通して、国際理解力を高めながら、概要をつかむ。 ○会話を自然なリズムで読む技能を高める。			
6	◆「スティービーワンダー」についての会話を通して、概要をつかむ能力と会話の継続の仕方を学ぶ ○「スティービーワンダー」に関する会話を通して、国際理解力を高めながら、概要をつかむ。 ○会話を自然なリズムで読む技能を高める。			
7 本時	◆「スティービーワンダー」についての説明文を通して、概要をつかむ能力とまとまりのある説明の仕方を学ぶ ○「スティービーワンダー」に関する説明文を通して、国際理解力を高めながら、概要をつかむ。 ○説明文を相手に聞かせるように読み、相手にうまく聞かせられるような技能を高める。			
8	◆やり取りの中で「自分の好きなものや建物」を紹介できるようになる ○「自分の好きな人やもの、建物」に関して、ALTに伝わるようなまとまりのある文章で説明する。 ○級友と自身の書いた説明文を紹介しあう。	書	書	◎ALTに「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事実をまとまりのある文章で書いている。(ワークシート分析) ◎ALTに「自分の好きな人やもの、建物」について知ってもらうために、その事柄に関する事実をまとまりのある文章で書こうとしている。(観察)
後	・ペーパーテスト	書		◎受動態の特徴や決まりを

「評価についての考え方」  
本単元においては、第1時から第7時までは、目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価は行わない。ただし、生徒の学習状況を把握し、学習改善や教師の指導改善に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないように十分留意する。

日					理解している。 ◎自分の好きな人物や建物について、受動態を用いて表現する技能を身に付けている。
---	--	--	--	--	--

### 8. 本時の学習指導

目標 スティービーワンダーについての説明文を相手に聞かせるように読むことができ、その要点をとらえることができる。

準備 自己評価シート

○展開 (7/8)

過程	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
導入 10分	○あいさつ ・全体で始業のあいさつをする。	・全体で英語で元気よくあいさつをする。
	○帯活動”One Minute Chat” ・ペアで会話活動を行う。	・1つのトピックに関して、会話を継続する方法を身に付けさせるために指導を行う。
展開 33分	○前時の復習 ・前時の確認をするために、6-1、6-2の会話を復習する。	・あくまでも復習のため、テンポよく活動を展開する。
	○本時の目標を確認 ・本時の目標を全体で確認する。	・本時の目標を提示する
	「スティービーワンダー」についての説明文を相手に聞かせるように読むことができ、その要点をとらえることができる。	
	○オーラルイントロダクション ・スピーチを聞かせ、どんなことを話しているのかを考える。	・映像は見せない状態で小間を3つほど与えて聞かせ、概要をとらえる努力をさせる。 ・近くの級友と考えを共有させる。
展開 33分	○新出語句の練習 ・進出語句の読み方を練習する。	・テンポよく新出語句の読み方を確認させる。 ・最初から全体練習しすぎない。
	○音読活動 ・説明文を自然な英語で読むために、繰り返し音読練習を行う。  1：個人練習 (タブレット) 2：ペア練習 (伝達) 3：全体練習 (chorus) 4：個人練習 (映像伝達) 5：ペア練習 (映像伝達) 6：個人練習 (タブレット)	・説明文を様々な方法で繰り返し音読練習させる。 ・個→全→個の活動の繰り返しで、発話に自信を持たせるような仕掛けを作る。 ・学習者用デジタル教科書を使用させることで、個別最適な学びの一助とする。 ・学習者用デジタル教科書の音声を参考にさせることで、自然な英語の発音やリズムで読む技能を身に付けさせる。 ◎スティービーワンダーについての説明文が相手に聞かせるように読むことができ、その要点をとらえることができる。《自己評価シート・観察》
	○物語の重要表現の確認 ・説明における重要表現を全体で確認する。	・説明時や発表時で使用できそうな重要表現を解説し、自由にメモさせる。 ・日本語での説明が続くため、5分以内で説明を終えるように心がける。
まとめ 7分	○要点の確認 ・物語の要点を最終確認する。	・あらかじめ用意した穴あき文をもとに、話の大まかな流れ(要点)を全体で最終確認する。 ・すべての単語を確認するのではなく、物語を形作る重要な単語をピックアップして要点確認をする。
	○振り返り ・本時で学んだことを振り返って、それを自己評価シートに記入する。	・自己評価シートで自身の本時の取り組みを振り返らせる。授業で学び得たことや疑問に思ったことを素直に書かせる。